

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 166号

平成28年2月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

「小西芳之助金曜会・同志会日誌語録」より (15)

永遠の命をもつ者になることが第一

学生紛争については直接触れる意志も力もないが、キリスト教というものに関して言いたいことがある。学生の頃高校の1年の終わり頃から内村先生の礼拝にずっと出ていた。高円寺東教会でズット聖書講義をしているが間違っているとは思わない。キリスト教の説くところは、do, do not ということは secondary である。第一に感じていることは永遠の生命である。神の子は永遠の命を持つものになるということが第一のことである。

be, have が第1、do, do not はそこから出てくるものである。fruit が出てくるものであるようにである。福音では信じれば永遠の命を得ると書いてある。やりたいことは命を得てからでよい。命を得てならやることは何でも良い。ヨハネ伝、ロマ書が読み応えがあるが

どんなことが書いてあるのか、この世が終わったら、神のもとに帰る。復活の日にキリストと共に復活するということである。人を愛せよということである。人のために働くということは人生70年のことなどにかまっていたては出来ない。大正8年外交官になろうとしてやめ、宗教家として50年努め、得たことは永遠の生命である。

(昭和44年10月3日 金曜会)

真理の受け方の3種

テサロニケ前書を研究中。「…あなた方が私たちの説いたこと神の言葉を聞いた時にそれを人間の言葉としてではなく、神のことばとし——事実そのとおりであるが——受け入れてくれたことである。そして、この神の言葉は、信じるあなたがたのうちに働いているのである」(2章13)

神の言葉を聞いて受け入れてくれた—hearing, received & accepted—真理の受け方の3種

1. 知識を聞く
2. 真理であると受け取る
3. 実践して真理に従う

福音の真理

- 1 hear キリストが救い主であるとの知識
- 2 receive キリストが神の子であると信じる
- 3 accept 真理に従って毎日生きてみる

イエスは30年間大工であった。モーセは40歳～80歳は羊飼いであった。

(昭和44年11月7日 金曜会)

聖書の言葉の中にキリストが生きている

職業は問題ではなく、どういう心持でそれをやるかが問題。信仰は神を信ずる＝キリストを信ずる＝キリストの言葉即ち聖書の言葉を信ずることである。聖書の研究がいかに必要かが分かる。パウロは「信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである」（ロマ書 10 章 17）と言っている。

ルターは「聖書はキリストでないかも知れないが、聖書はキリストの『ゆりかご』であり、聖書の言葉の中にキリストが生きている』と言っている。19～20 世紀であまりにも科学が発達し、科学万能になりすぎている。

(昭和 44 年 12 月 5 日 金曜日)

鈴木正久牧師も癌になって本当の信仰が始まった

昨年感じたこと。57歳で鈴木正久牧師が亡くなられた。先生がなくなられる直前語った、また書かれたものがある。それはよく読まねばならない。大説教である。先生は癌であると分かる前は信仰が分かっていなかった。それを癌であると言われて一時失望したが、ピリピ書を何度か読まれて後「癌であれ何であれ自分は生きている」と言われた。それから先生の本当の信仰が始まったと言える。学者としては第一人者、日本のキリスト教会で第一人者の一人である。内村先生にしても52歳で娘を失われ初めて復活が分かり、その時から先生の伝道が始まったと言える。同志会に入る諸兄は大体において信仰を必要としない人であると思う。本当に必要な人は死を通してそれを体得する人々である。

(昭和45年1月16日 金曜日)

common なことを地味に行え

中学 3 年の時、英語の神田（乃武）先生の教えの言葉の中で次の言葉を今までずーっと覚えています。“Don't try to do uncommon things, but try to do common things uncommonly well.”（非凡なことをしようとするな。平凡なことを非凡な程上手に行なおうとしなさい）common things の中に深い意味がある。common なことを地味に行い、普通のことを深く研究して経験と学問を積んで、その後に uncommon なことをすべきである。大学でやることは common なことだと思う。自分たちのやることは一生懸命 uncommonly な位やりなさい。モーセは 80 歳から始めた。40 歳までは王子、40～80 歳までは羊飼ひ、80 歳に神の声を聞いて伝道した。神の子イエスでさえも 30 歳まで大工であり、それから教えを説いた。早禱、金曜会、主日礼拝等々、common なことは真剣にやるべきだ。長続きするのは common なことを uncommonly にやった人である。

（昭和 45 年 5 月 1 日 金曜会）

自分一人の救いを成し遂げよ

新入生に対する紹介。大正 12 年卒、安田信託に勤務後高円寺東教会を持つ。内村先生に傾倒、しかし教会で生まれたので無教会とは違う。“一人”というものは非常に大きなことだと思っている。自分一人の救いが完成するということは非常に大きなことだと思っている。自分一人の救いが完成するということは非常に大きなことだと思っている。人を世話する力はないのである。人を助けようという気持ちを起こす必要はない。自分一人の救いを成し遂げよ。

キリスト教には 3 つの大きなことがある。

1. 救いとはどういうことか（救いの内容）
2. 救われるには何をどのように信じたらよいか
3. 救いを成就するためにはどのような行ないをもってしたらよいか

ロマ書の最後の頌栄の言葉、ロマ書の最初の言葉、ロマ書の汝らを強くする(strength)。この 3 つが分かると strength になるのである。

(昭和 45 年 10 月 23 日 金曜日)

イエスの与える平安

ヨハネ伝 14～16 章は最後の弟子たちに対する教訓である。イエスが弟子たちに平安を残すといわれる。この平安は私の持っている平安である。この世が与えるような平安ではない。イエスの平安とはどんなものであるかを考えるに、よく読んで見ると「自分は父なる神と一緒にいる」ということ、これが一つである。もう一つは「自分は十字架を負うて復活して父のもとに帰る」ということである。

イエスは自分がよみがえるということの確信を持っておられた。「信仰と復活と望み」がイエスの持っている平安の内容である。このことはヨハネ伝 14～16 章を読むとはっきりしてくる。イエスの与える平安はこの世の与える平安ではない。キリスト教の中心はここにあると思う。イエスの福音を信じることによってこの平安が来る。この平安を我々はもらわなければならない。

(昭和 45 年 12 月 4 日 金曜日)

先生にへばりついておれ

聖書は霊感によって書かれた。我々の頭では理解できない。聖霊がのぞむと聖書を真なりと信ずる。内村先生の講義を聴く。聖書の話ばかりだった。キリスト教の深い真理は聖書にある。聖書は聖霊によって書かれた。従って分からない。イエスキリストだけが聖霊を持って生れた人間である。我々は学んで聖霊を受ける。自然にやってきます。死ぬまで分からないのが当たり前だが、へばりついておれ。先生にへばりついておれ。へばりつき戦術。自分は会社員であるから聖書のみを読む。

20年間聖書を講義。続けて読むと聖霊によって書かれたことが分かる。聖書を読むこと。註解は聖書である。死ぬまで聖書を離すな。へばりつき戦術。聖霊はキリスト教のカギ。内会員だけの集会もよい。

(昭和46年1月17日 於テモテ教会)

天国は言葉ではない力である

この3月14日、私の教会を始めて満22年になる。内村先生の集まりで学生時代6年間聖書の講義を聞いた。内村先生は自分の信仰や経験など一切話さず、聖書の教えだけを話された。信仰とは聖書の言葉を信ずることである。聖書の教えの述べ伝えてきたことによって聖書が少しく分かった。

聖書は地の書ではなく、天の書である。これを理解するには聖霊が是非必要だが、聖霊は一度に下ることは稀である。それ故に忍耐が必要である。汝らの力は年と共に増す。聖霊は徐々に降るものである。“復活”などというものはそう簡単に分かるものではない。天国は言葉ではない力である。キリストを神の子と信じることが救われる道である。愛を行なったから救われるとは書いていない。聖書は自分の分からない所を読まなければならない。分かるところを自己流で読んでも何にもならない。

(昭和45年4月16日 金曜会)